

本日、奈良県 荒井知事 をお迎えし、東京で共同開催いたします展覧会について、覚書の調印を行うこととなりまして、調印に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。

展覧会開催について、大変お世話になります東京国立博物館をはじめ、それぞれの県議会など両県の関係者の方々に深く感謝を申し上げますとともに、両県の協力関係進展の慶びを荒井知事とともに分かち合いたいと思います。

3年前の2012年（平成24年）は、『古事記』の編纂から1300年の年でした。島根県は、これを記念して、東京・京都・島根で特別展を開催しましたが、これは2010年（平成22年）に奈良県が実施された「平城京遷都1300年」の行事に、触発されたからでありました。

こうしたことを受け、その後、奈良県と島根県は、「古代歴史文化賞」の創設や「古墳時代の玉類」の調査研究を他県とも連携しながら実施してきております。

今回、これに加え、両県共同で、2020年（平成32年）の2月から3月に約50日間、東京国立博物館で、日本の国の成り立ちや古代世界を紹介する特別展「出雲と大和」を開催することとしたのであります。

奈良時代に編纂された『古事記』や『日本書紀』の中には、「出雲」と「大和」にまつわる多くの神話や伝承などが記述されており、「出雲」と「大和」は、古代日本国家の成立にとって非常に重要な地域でありました。

「出雲」には、荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡から大量の青銅器など発掘され、また、壮大な出雲大社は古代から今日まで連綿として続いております。

「大和」には、古代国家の成立過程を示す、古墳や平城京跡などの遺跡や数多くの社寺が残っています。

展覧会開催の2020年（平成32年）は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される年ですし、『日本書紀』編纂1300年の節目の年でもあります。

日本に対して国内外から関心と注目が集まるこの年に、このような展覧会を開催することは、日本の成り立ちについて、日本人が考える契機となると同時に、外国の方々にも知っていただく良い機会になると思っております。

展覧会の具体的内容については、今後、関係者で検討して行くこととなります。

島根県からは、出雲大社の多大なご協力をいただき、県外では初公開となる重要文化財「出雲大社の心御柱」を展示する予定であります。

また、荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡から出土した国宝の青銅器を可能な限り多く展示したいと考えております。

地方創生の流れの中、奈良・島根の地方から、全国、さらには世界に向け、日本の文化・歴史の魅力を発信できることは、大いに意義があろうか、と思います。

今後も、奈良県と一緒に、展覧会に向けて、全力をあげて取り組んでまいりますので、皆様によりしくお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。